

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 33

学校名・団体名	熊本市立芳野小学校
HPアドレス	http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/yoshino/index.htm
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	芳野百年桜の苗木を熊本の震災地に贈り元気を届けよう
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>一昨年4月14日、16日、熊本地方は震度7の大地震に2度も襲われ、甚大なる被害を受けた。益城町、西原村、南阿蘇村、熊本市など今尚多数の住民が避難所生活を余儀なくされている。各学校も様々な被害を受けた。本校は、児童数65名の小規模校であり、厳しい震災地からは遠く、震災ボランティア等には参加できない。そこで、本校でできることはないかと、児童みんなで考え、本校のシンボルツリー「芳野百年桜」（ソメイヨシノ）の芽接ぎし、その苗木を震災地の小学校に贈り、桜の木の成長を震災復興のシンボルにしてほしいと考えた。</p> <p>そして、昨年3月6日、南阿蘇村立南阿蘇西小学校を訪問し、地震の際の両校の様子を発表するとともに、ゲーム等の交流会をおこなった。その後、「芳野百年桜」（ソメイヨシノ）の苗木を両校の児童で植樹をして、復興を願った。</p> <p>本年は3月9日（金）、新築したばかりの校舎が崩壊したため、合併前の旧校舎で学習している阿蘇市立阿蘇西小学校を訪問し、復興を願う祈念植樹を行うよていである。そして、来年度以降も、この事業を継続していきたい、各地を「芳野百年桜」で元気にしていきたいと考えている。</p>	

・ 活動内容

- (1) 対象者 全校生徒 (65名)
- (2) 教科 総合的な学習の時間
- (3) ねらい 郷土熊本を愛する心を育てる

(4) 活動の特色

- ①学校のシンボルツリー『芳野百年桜』について学ぶ、桜の保全作業(7月、2月) 講師 桜の名所づくりアドバイザー・樹木医 今村順次さん 一級造園施工管理技師・樹木医 今村能子さん
- ②桜(ソメイヨシノ)の芽接ぎをして苗木をつくる(9月) 講師 桜の名所づくりアドバイザー・樹木医、今村順次さん、一級造園施工管理技師・樹木医、今村能子さん、芳野さくらを守る会長 杉本清和さんはじめ会員の皆さん5名

一昨年4月14・16日の「熊本地震」では、多くの学校が被災した。中でも熊本市、益城町、西原村、南阿蘇村の被害はとて大きいものがあった。本校は、熊本市西区で金峰山の麓であるため、大きな被害はなかったが、地震の怖さは十分に知っている。テレビ等で映し出される被災地の映像を見ていて、私たちにも何かできないかと考えた。本校の「芳野百年桜」(図2)は、大火をくぐり抜けた古木である。春には、今なお元気に咲き誇る。「そうだ、芳野の桜を、再生復活のシンボルとして被災地の学校に贈ろう」という意見が出された。そこで、毎年お世話になっている「日本花の会」の樹木医と相談し、9月に芳野の桜(ソメイヨシノ)についての桜学習と桜の苗木づくり(一人一鉢)を実施する(図1)。この時、今年全国表彰(「全国さくら功労者」)を受けた「芳野さくらを守る会」の皆様にもご協力していただく予定である。このあと、当番を決め毎日の水やりと観察を続け、平成29年3月まで育苗する。そして、「熊本地震」の被災校である南阿蘇西小学校との交流会と桜の苗の贈呈式を現地で実施する。

- ④苗木を育てる(9月~3月)

- ⑤甚大な被害を受けた、阿蘇市の阿蘇西小学校を全校児童で訪問し、桜の苗木の贈呈式と交流会を実施する(平成30年3月9日(金))

新入生 ことしは倍増 —— 友達たくさんできるかな?
熊本市・芳野小



笑みも満開 「百年桜」

熊本市西区河内町の芳野小に15日、新入生が入学した。二枚年10人前後で推移して行、本年度は倍の入学者。在校生や地域住民ら約100人が大々拍手で出迎えた。

同小の児童は158年に、教員(新入生を含む)10名、46人の教員が、近年は、年前に転居移住した金峰山麓や少子化の影響で減少、隣の大津地区のスクールが統合、一部で進学バスで通っている児童も多くなっている。本年度の児童は、

式で、井手園長は「皆さんを心待ちにしていました。決り事をつけていきたいと思います」とあいさつ。在校生が歓迎の歌を披露し、ソメイヨシノの苗木を贈るの場面も撮影された。

校長(1)は、児童が増え、運動会などの学校行事も行進りする。例年なら取っている校歌も学ばせている。同校は2014年、複式学級があることから市教委の学校規模適正化基本方針で統合対象だったが、児童数の増加が見込まれたため除外された。(西原清和)

芳野小のシンボルツリー「百年桜」の保全作業の様子 (熊本市報)

芳野小の全校児童と新入生児童の児童 (熊本市報)

今年の「芳野百年桜と新入学児童」の記事(熊本日日新聞)

熊本市西区河内町の芳野小の児童が7日、同校の名物である樹齢約100年のソメイヨシノから増やした苗木20本を、熊本地震で被災した南阿蘇村河陽の南阿蘇西小に届けた。同校の児童が、「桜の花が咲く頃には村が元の姿に戻ってほしい」と願いを込めて校庭に植えた。

地元で「百年桜」と親しまれる芳野小の桜は1921年に校庭に植えられ、火災や台風などを乗り越えた2本が残る。児童らは生命力の強い木を被災地に贈って励まそうと、昨年9月に芽接ぎをして作った苗木を育てた。

この日は、芳野小の全校児童57人が南阿蘇西小を訪れ、桜の歴史を紹介。阿蘇児童が協力して校庭や駐車場の周りに苗木を植え、優

「百年桜」被災地で花開け



熊本市・芳野小児童 南阿蘇西小に苗木贈る

しく土をかぶせて水をかけた。

芳野小6年の畑田桃花さんは「百年桜の花はかわいくて癒やされる。地震で大変な思いをした南阿蘇の人に元気を与えてほしい。」

南阿蘇西小6年の村上晴彦君は「地震から復興できた時に、みんなで笑って花を見られるよう大切に育てたい」と笑顔を見せた。(堀江利雅)

芳野小の樹齢約100年のソメイヨシノから増やした苗木を南阿蘇西小の校庭に贈る南阿蘇西小の児童(7日、南阿蘇村)

昨年の祈念植樹のようすの記事(熊本日日新聞)

ア) 交流会 (体育館で全校児童と)・両校校長先生あいさつ・代表による学校紹介・全校児童の交流会 (グループ作り、じゃんけん列車など)・お礼のあいさつ (阿蘇西小学校代表)

イ) 祈念樹桜植樹 (簡単な説明のあと植樹)・阿蘇西小学校5・6年生名と芳野児童で植樹

(5) 成果 本校は、心の教育の中心として環境緑化教育を積み重ねてきた。本校は今年で創立142年(明治8年に岳・野出・東門寺の3小学校ができた)。3小学校が統合され現在地に造られたのが大正10年。何もない山林地を切り開いての開校で、相当のご苦労があったという。このため本校は、多数の自然林の緑に囲まれている。春には、この時の開校を記念して植えられた桜(ソメイヨシノ)の古木である「芳野百年桜」(昭和14年の校舍全焼の時にも残った)やその後植えられた30本以上の桜が今も校庭・通学路に咲き誇る。このすばらしい緑の環境のよさを児童に感じ取ってほしい、そして母校の芳野小学校を誇りとしてほしいと考え、「芳野百年桜」を中心とした環境緑化教育の実践活動を実施していた。「熊本地震」は、その計画当初に起きた。そこで、再生DNAが強い「芳野百年桜」

(熊本県で一番古いソメイヨシノ)の苗木を被災地に贈り励まそうというアイデアが子どもたちから上がり、学校全体で計画実施することになった。

昨年、本年の実践を通して、子どもたちは

- ① 熊本地震について真剣にまなぶことができた。(記憶を風化させない。)
- ② 熊本地震の甚大な被害を受けた阿蘇の小学校との交流を通して、防災の重要性、助け合うことの大切さについて学ぶことができた。(今年で2回目)
- ③ 自校の誇りである「芳野百年桜」について深く学ぶことで、さらに学校・地域への愛情が深くなった。
- ④ 環境緑化活動を通して、命の大切さ、植物の美しさについて再認識した。
- ⑤ 全校児童で一緒に取り組むことにより、さらに仲間意識と自己肯定感が向上した。

なお、この実践は、熊本市主催「学校環境緑化コンクール」に応募し、その内容が認められ、熊本市内小学校92校から、昨年度は「熊本市賞」、本年度は「特別賞」を受賞することができた。このことも、子どもたちにとって大きな励みとなった。(別紙：コンクール提出資料)

かつては、「自然の中を走り回って遊びながら、子どもたちは肉体を鍛え、観察力・判断力を養い、自然に関する理解を深め、社会性を身に付けてきた。きた。それらは心身の発達に不可欠のものであると同時に、学校教育を推進する基礎ともなっていたものである。」(熊本市学校緑化読本『学校緑化のすすめ』(昭和56年発行)とある。現在にこそ大切な言葉であると思う。今後も、熊本復興を祈念するとともに、子どもたちの心を育てる核として学校環境緑化活動を中心とした学校づくりを推進していきたい。最後に、このような貴重な体験の機会を与えていただいた「公益財団法人 ちゅうでん教育振興財団」の心より感謝を申し上げたい。また、熊本地震への多大なるご支援に対しても、衷心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



地元農家や樹木医とともに「芽接ぎ」に挑戦する児童—熊本市西区

熊本市西区河内町の芳野小児童が27日、校庭にある樹齢94年のソメイヨシノ「よしの百年桜」の苗木作りをした。熊本地震からの復興を願って、阿蘇市の小学校に贈る。児童や地域住民を見守ってきたこの桜は、学校のシンボルとして長年親しまれてきた。熊本地震後は、自慢の桜で被災地を元気づけたいと苗木を贈る活動を始めた。昨年度は南阿蘇村の小



「百年桜」苗木できた 熊本市・芳野小 阿蘇市に贈る

学校に20本を届けた。苗木作りには、樹木医や地元農家も協力。児童は百年桜の新芽を使った「芽接ぎ」に挑戦した。台木となるオシマザクラの根元付近に小さな切り込みを入れて挿し、テープで固定。約1時間で150本の苗木ができた。順調に育てば1・3年で花を付けるという。3年の西村ゆり奈さんは「早く百年桜みたいに大きな木に育ってほしい。桜の花を見ると元気になると思う」と大事そうに苗木を見つめた。来年3月に全校児童で阿蘇市の小学校を訪れ、植樹する予定で、子どもたちはその日が待ち遠しい様子だった。(立石真一)